



肢・病併置校 東京都立光明学園 学校通信 高等部卒業記念号 (令和2年3月19日発行)

# 光明の学び

東京都立光明学園

校長 田村 康二郎

東京都世田谷区松原6-38-27

電話 03-3323-8421

## 高等部卒業生に贈る「光明学」

### 母校「光明学園」卒業生であることを誇りに

今、光明学園における全ての学びを修め終えた皆さんに、学業成就の証「卒業証書」を授けました。高等部卒業をここに祝福します。明日から卒業後の生活が始まります。はばたきの日に際し、校長より特別授業「光明学」を贈ります。

**1時間目は「国語」の時間**です。「光明」の「光」の字の成り立ちは、人が火の籠を頭上に掲げて、周りを照らす形だと言われています。そして、「明」の字は、左の「日」が窓を表し、その横に「月」を添えて。窓から月の光が射し込む様を示しているという説が最新の解釈です。つまり、「学校での学びが一筋の光となって人生の幸福につながる前途を照らし出す」という『学舎で学ぶことの真意』が校名に込められているのです。

**2時間目は「歴史」の時間**です。光明学園の歴史を振り返ります。昭和7年、日本初の、体の不自由な子供のための公立学校『東京市立光明学校』が、港区麻布で開校しました。開校時には麹町小学校の病弱教育学級の担任として活躍された結城捨次郎先生が初代校長として着任し、病弱教育の様々なメソッドを取り入れました。肢体不自由教育と病弱教育の繋がり原点がそこにあったということです。現在の「自立活動」や「キャリア教育」そして「生涯学習」などの学びの基礎もこの頃に形成されました。

さて、国内で唯一の肢体不自由児のための学校である光明学校には、全国から入学希望者が殺到しました。そこで、昭和14年、世田谷に校舎を建て本校を移しました。昭和21年に中学校が併設、昭和33年に高等部が設置され、その後、全国に、中学部と高等部の肢体不自由教育が広がっていきました。

今年で、この地での教育は80年目を迎えました。今も医療的ケアの推進やプログラミング学習の導入など、時代の先頭を駆けるパイオニア校であることに変わりありません。

**3時間目は特設「道徳」の時間**です。最初に「相互理解」についてお話しします。令和の時代に入り、多様な人々が共に支え合いながら豊かな社会を作っていく共生社会の流れが一層進んでいきます。

本校では両部門の学園生が一つ屋根の下、学校と寄宿舎で生活を送っています。全学園生がエントリーできる『光美展』『光書展』は「互いの長所を認め合い学園の一体感を醸成する」ことをねらいに開催しており、これからの伝統としていきます。この機会をとおして、互いを理解し合うことや互いを尊重することを学んだことと思います。

続いて「感謝」についてです。「生まれた頃から病気がちで、毎日心配ばかりしていました。とても高等部を卒業する姿を想像できませんでした。」と卒業生の保護者の方から伺うことがあります。実は、この一年間に救急隊に6回出動いただき、学園生の命を助けていただきました。その他、警察・自治会・病院などの多くの方々に、学園生の健康と安全を守り、築いていただきました。いつまでも、感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。

そして、「給食の時間」です。9月からは両部門の学園生が、ともに新校舎西棟でランチタイムを過ごしました。(ガラス越しに見学した厨房の調理の様子も良い思い出でしょう。)新しい校舎で最初に学んだ皆さん。このすてきな新校舎を後輩に託してください。

では、これで最後の授業を終わります。

皆さんは、多くの人々の愛で、大切に生まれ、体力を養い、健康を維持しながら、日々の学びを積み上げ、門出の節目を迎えているのです。一人一人は誰にも代わることのできない尊い存在です。この学園で知り合った、同じ志の学園生と学び合えたこと、多くの人々との絆を得たこと、学校や寄宿舎生活での学習経験を駆使して、人生の本舞台に登壇してください。そして**光明学園卒業生であることを一生の誇りとしてください。**

統括校長 田村康二郎